

## 私の職業奉仕

宮崎北RC会員：押川 弘巳

昔は、医者と弁護士は門構えで仕事をする。と言われていた時代があったそうですが、今や厚労省の医師養成の見積もり違いとはいえ、日本の歯科医はコンビニの数より多く、損益分岐点の比率2000人に1人をとっくにオーバーし、我が宮崎市に於いても約1600人に1人の割合になっています。

私も大学卒業して42年、開業して37年の年月が経過していますが、我々が卒業した頃は兎に角、給与を毎月全額注ぎ込むぐらいの勉強をし、と先輩から良く言われたもので、それが牽いては自分自身の血となり肉となり患者に還元できるんだ。と教育されたものでした。私も卒後5年間その格言を実践しその後、開業して後輩達にも同じことを話してきました。然しながら、近頃は過当競争の為か、卒後直ぐ開業し後で勉強する先生方が徐々に増加しているのも現状です。そうになると診療姿勢が我々のころより変化し、患者に迎合し無理難題にノーが言えないドクターが増えてきているのも事実です。

しかし、診療姿勢は、患者に迎合するのではなく、患者の話をよく聞き、その上で自分の診療方針を話し、患者に納得させて、真摯な態度で診療に当たるべきではないかと思えます。又、この様な対処法が、患者に良質の医療を提供でき、モンスターペイシェントの発現を防ぎ、牽いてはRCの本来の姿【職業奉仕】でいうところの『自分の職場で最善を尽くせ』にまさに合致した診療姿勢ではないかと思うのと同時に其の為にはどの様な症例に出合っても其の対処法を、頭の中の引き出しからスムーズに引きだして、対処出来るだけの最新医学情報を常にインプットしておく事が重要であり、自分自身も、RCクラブに関わった者として人生一生勉強の姿勢を保ち続け、職業奉仕の精神を今後の生活の中で実践してゆきたいと思う。